

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2022 年 10 月～12 月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

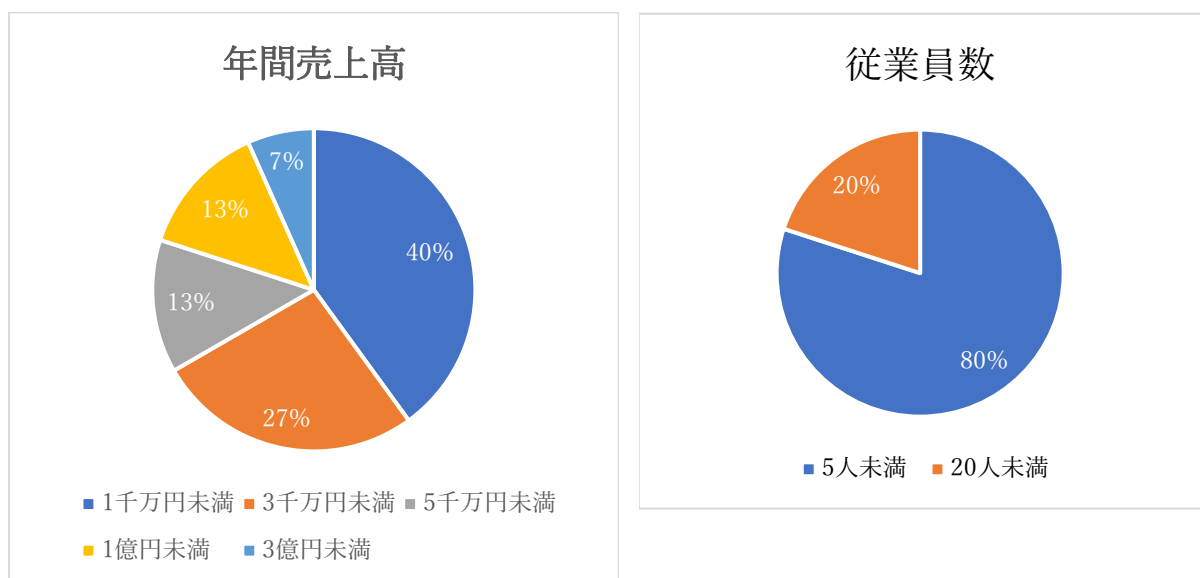
3. 調査事業者

① 製造業	3 社
② 建設業	2 社
③ 小売業（卸売業を含む）	4 社
④ サービス業	6 社

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大及び原油価格高騰の経営への影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表 1：2022 年 10 月～12 月の DI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	0.0%	33.3%	0.0%	-25.0%	0.0%
販売単価	-13.0%	33.3%	0.0%	-25.0%	-33.3%
経常利益	-33.3%	0.0%	-50.0%	-50.0%	-33.3%
資金繰り	-20.0%	0.0%	-50.0%	-50.0%	0.0%
人材確保	-20.0%	0.0%	-50.0%	-25.0%	-16.7%
景況感	-26.7%	0.0%	-50.0%	-50.0%	-16.7%

- 前回（2022 年 7 月～9 月）に比べ、全体的に改善傾向にあり、業績回復の兆しも垣間見れる。
- 特に、製造業が売上を伸ばしており、回復に向かっている様子が窺える。
- また、前回著しく低迷したサービス業もやや持ち直しの兆しも垣間見える。ただし、経常利益は回復が遅れており、経費増の影響が続いていることが推測される。
- その点では、全業種で売上高の改善傾向に比較し、経常利益はまだ伸び悩んでいる様子も窺える。全業種に原材料や光熱費等の経費増の影響が及んでいることを示唆しているようだ。

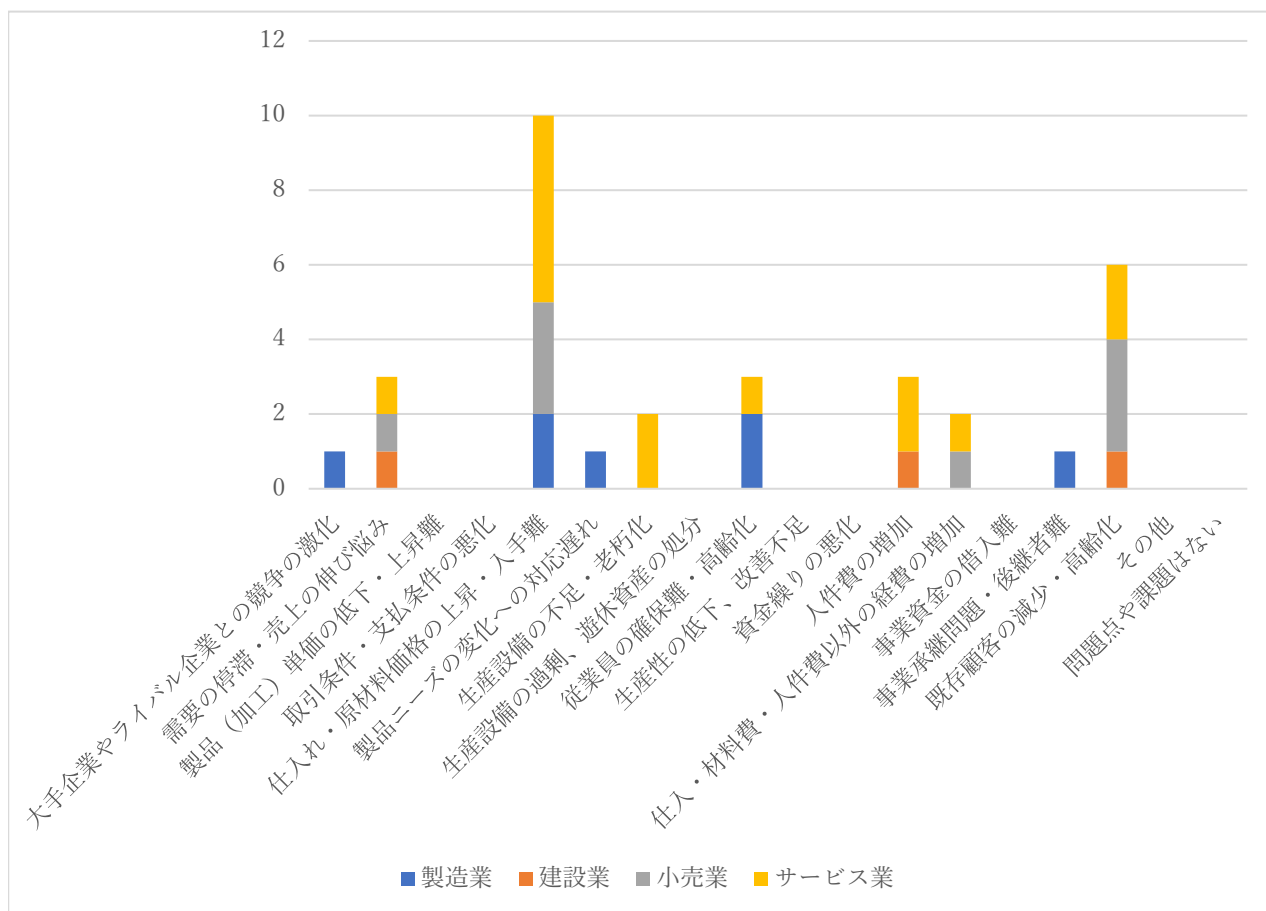
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2022年10月～12月の課題意識



- 前回と比べ、全体的に問題が解消されてきている様子が窺える。
- 相変わらず仕入・原材料費やその他の経費の増加は顕著だが、前回はピークとして少し低下しており、経費増の問題も少し落ち着きつつあると推測できる。
- 需要・売上の低迷も小売業とサービス業で解消されつつある。
- 全体的な問題解消傾向の一方で、小売業を中心に既存顧客の減少・高齢化の問題が目立ってきており、新たな顧客開拓の必要性、あるいはポストコロナの事業転換の必要性も示唆しているようにも見受けられる。

Ⅲ. コロナ禍及び原油価格高騰の経営への影響

図2 コロナ禍の具体的な影響の推移

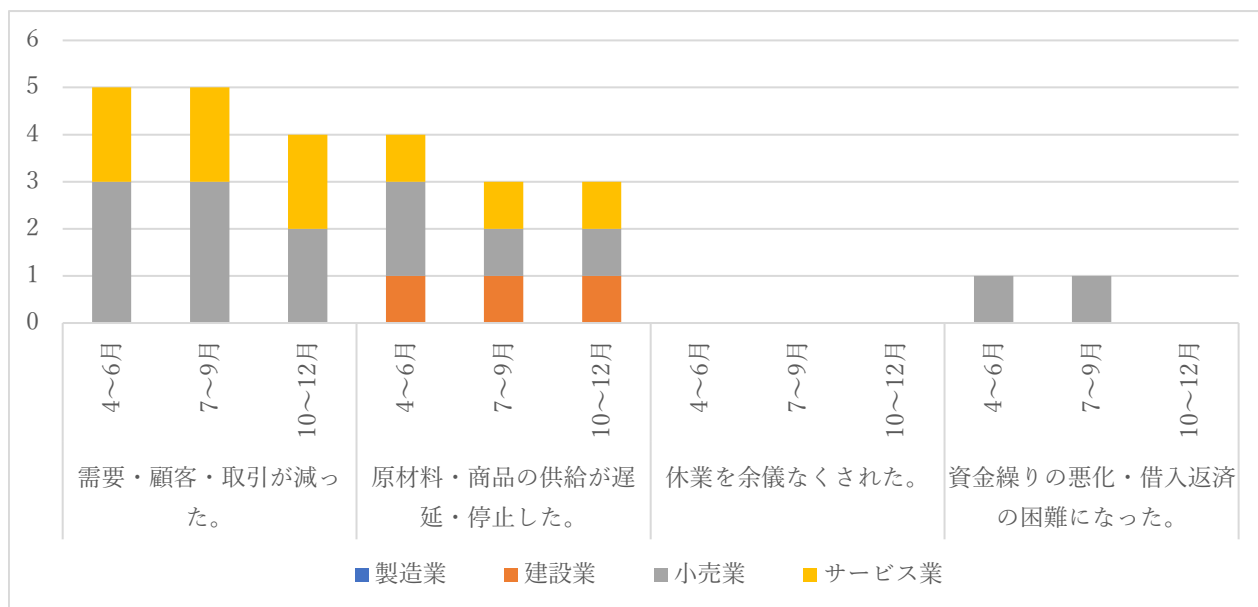
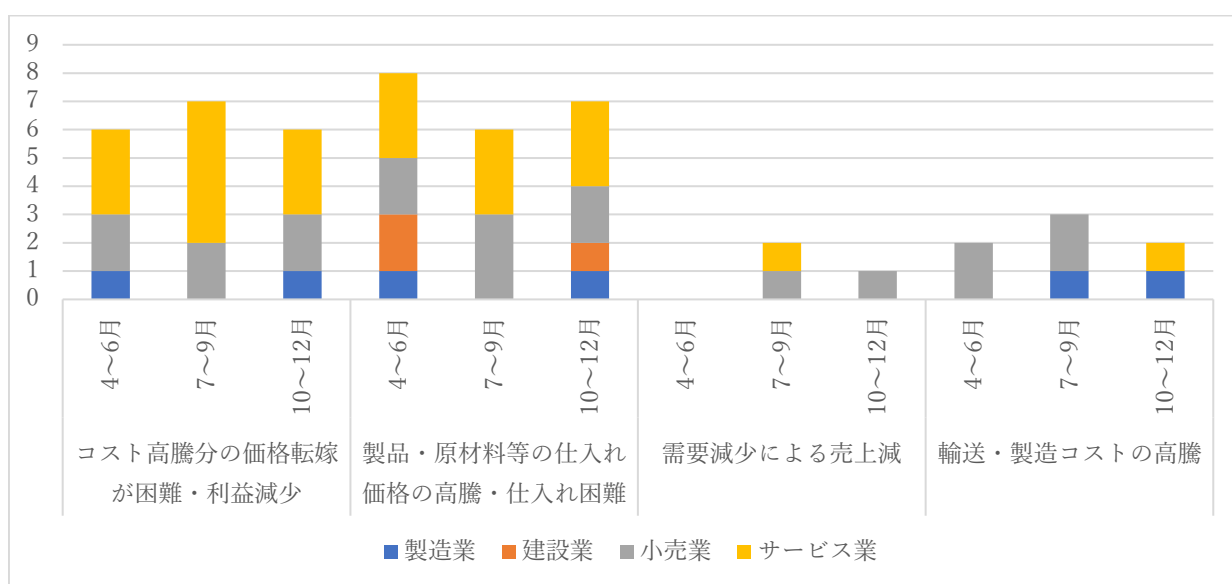


図3 原油価格高騰の具体的な影響の推移



- コロナ禍の影響が少しずつ緩和されきている様子が窺える。経済の視点で、コロナ禍が収束に向かっていると見ることができる。
- 一方で、原油価格高騰の影響はまだ継続中と言える。前回、特に小売業とサービス業において影響が大きかったが、今回は全業種に影響が及んでいる様子が窺える。
- 特に、商品や原材料の仕入価格・仕入れ難の問題が、コロナ禍の影響から原油価格高騰の影響にシフトしており、これまで影響が及ばなかった業種にも悪影響をもたらしていることが推測できる。

以上